

真庭なりわい塾 公開講座 「私たちがつくる北房のまち」 2023/11/18

いま、なぜ地域か

今だから求められる地域の再生

駒宮博男（地域再生機構理事長）

．．．本日のプログラムの進め方．．．

私の話は、プロローグです

本日お呼びしたお二人の講師は、理論も実践も豊富な素晴らしい方々なので、是非、耳の穴をかつぽじってお聞き下さい！

最後のパネルは、できる限り皆さんの質問に答える時間にしたいと思います。

まず初めに幾つかの課題について考えよう

課題 1 : 「地域」とは何か？

課題 2 : なぜ、地域の人口は減り続けてきたか？

課題 3 : なぜ今、改めて地域が脚光を浴びているか？

課題 4 : 地域再生のための二つの要素

課題 1

「地域」とは何か？

「地域」のイメージは、話者により違う

- ・ 古来、日本の生活を支えてきた「集落」が地域か？
- ・ 行政区分である、市町村（基礎自治体）が地域か？
 - ・ 小学校区（旧小学校区？）くらいが地域か？
 - ・ 中学校区くらいが地域か？
- ・ 「北房」は地域か？（「地域」として大きすぎないか？）
- ・ 環境学者（物質循環を考えている人）は、「流域」を地域という？
（旭川流域とか・・・）

自給をベースに考える、私の「地域観」

- ・ 食、エネルギーの自給を考えるなら、「ムラ」が「地域」
- ・ 初等教育、福祉を考えるなら、「小学校区」くらいが「地域」
(ただし、統廃合が進む前の小学校区)
- ・ 医療は、高度な医療を求めると結構広い範囲となる
(これは、高等教育も同じか?)
 - ・ ガバナンス的には、3,000人が上限か?
(ただし、規模が小さすぎても維持が困難?)
- ・ **結局は、課題に対して「地域」の規模が決まるのでは?**

詳しくは、笠松さんの話を聞いてください！！

課題 2

なぜ、地域の人口は減り続けてきたか？

人口減少の実態

いわゆる「地方」（郡部）は、昭和30年代から過疎に悩まされてきた

過疎の原因は、産業構造の大転換？
（豊田市郡部で聞いた老人の話）

郡部の「過疎」は、都市部の「過密」と同時並行

そもそも、「人口減少」は「悪」なのか？

（**東京一極集中**はさまざまな点で宜しくない）

（しかし、もしかすると、地域ごとの「適正人口」があるかもしれない）

（**少子高齢化**（=歪な人口ピラミッド）は社会を持続不能にする）

(参考) 昭和30年頃より、郡部人口は下降、都市部人口が急増

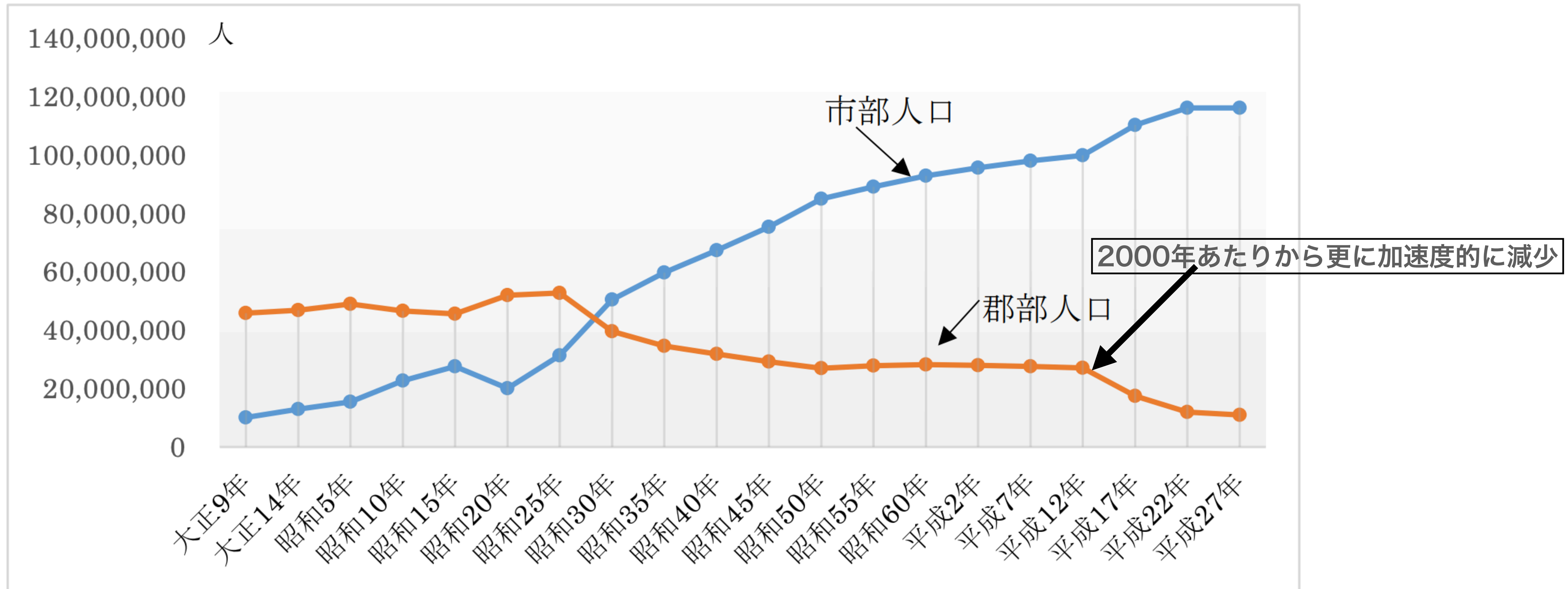
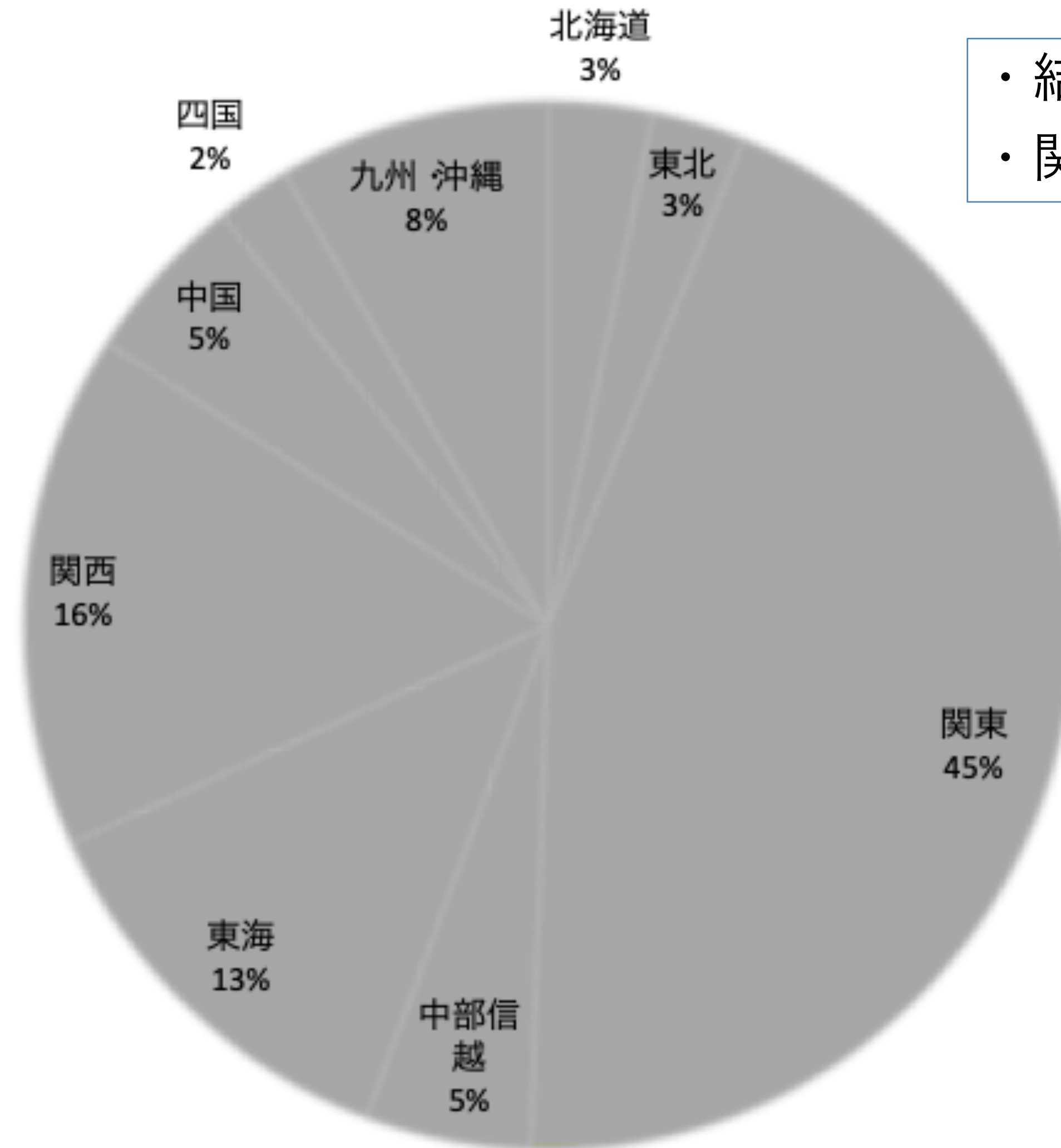


図1 国勢調査市部・郡部別人口の推移

(参考) 地方別企業収入

売上 収入)



- ・ 結局これが一極集中の実体！
- ・ 関東圏で、日本の経済活動の45%

課題 3

なぜ今、改めて地域が脚光を浴びているか？

なぜ都市の若者の30%が田舎を目指すか？

「自己決定」の場があまりにも少ないとことに大きな違和感を感じている？

(過去のなりわい塾卒塾生の基本的属性？)

若者は「**双六型人生**」がすでに崩壊していることに気づいている！

(終身雇用・年功序列という安定感＋物質的生活の向上＝高度成長期)

(もはや、都市部で高収入を得るためには、「差異化」をもたらす能力がある人のみ？)

(1995年以降、国民の収入は平行線＝「成長型経済」は終わっている！)

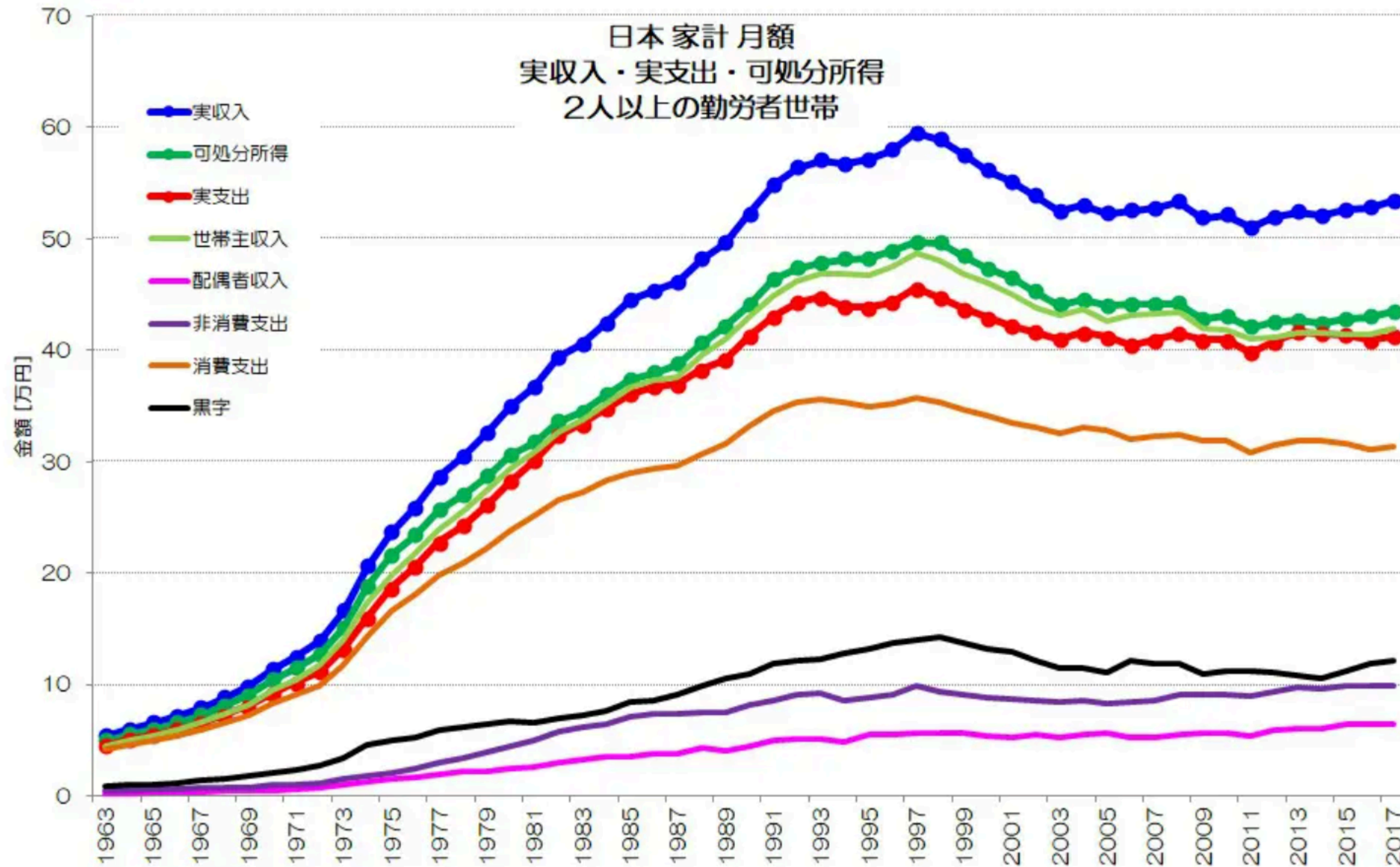
(しかし、**未だに多くの政策決定者、中高年齢層は気づいていない！！**)

主に名古屋周辺の人たちに対する意識調査の結果は、ちょっと衝撃的だった！

- ・ 田舎（岐阜県）への移住希望者は : ほぼ30%
- ・ 移住後の「なりわい」 : 最低限の現金収入＋「自給」＋多業を想定
 - ・ 移住後の想定年収は・・・ 特に拘らない : 25%
 - 200万以下 : 15%
 - 300万以下 : 15%
 - 合わせて、**55%！！！！**

(参考) 今後、再び高度成長期のような「成長」は有り得ない！！

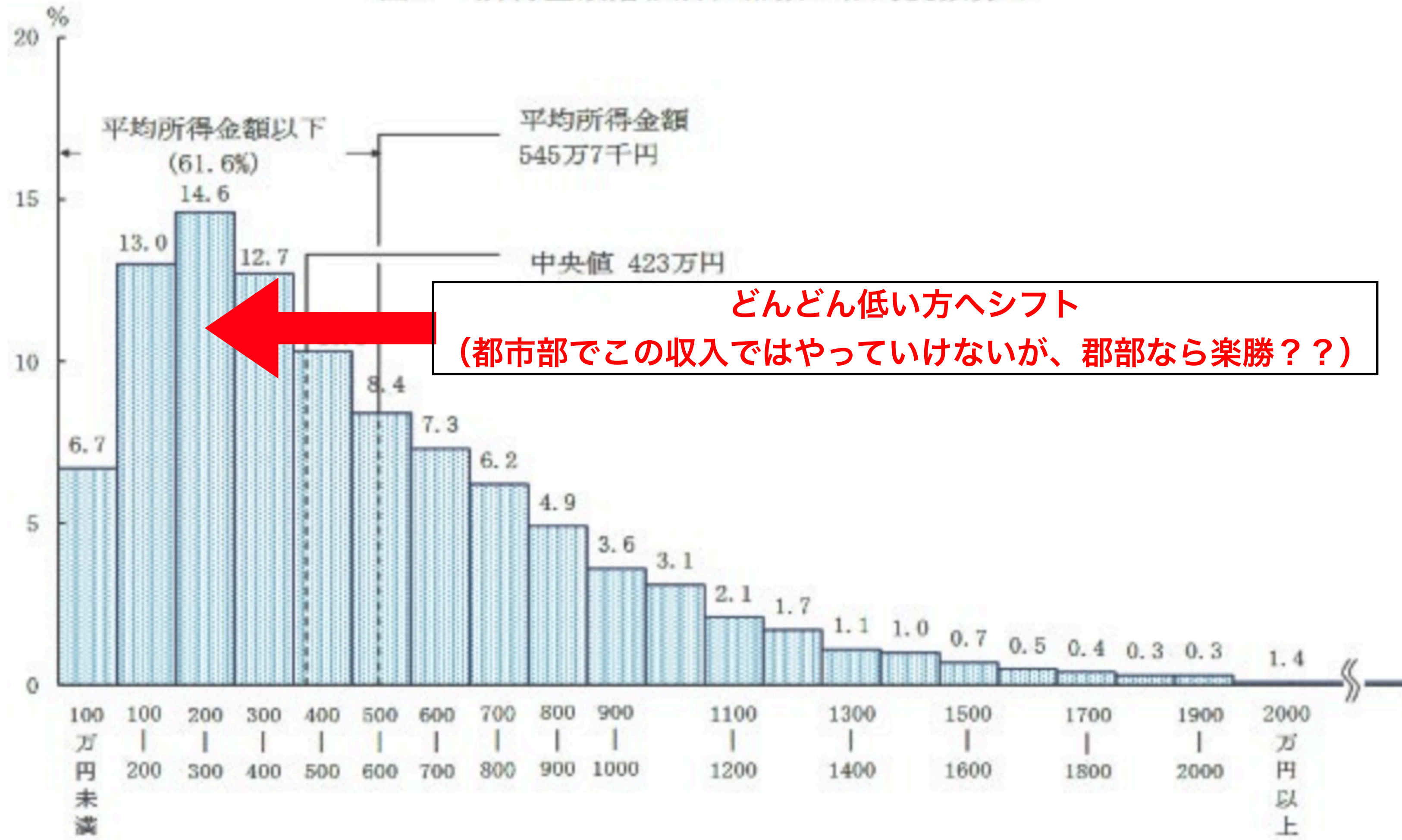
(1995年で、「経済成長社会」は終焉を迎えたのでは?)



「家計調査 収支編」を基に作成
「1世帯当たり年平均1か月間の収入と支出 - 二人以上の世帯のうち勤労者世帯」の数値

(参考) 所得格差は広がるばかり

図9 所得金額階級別世帯数の相対度数分布



2018年と2021年を比べると、平均所得金額は 6.6万円ダウン、中央値は 14万円のダウン。

厚労省データより、駒宮加筆

課題 4

地域再生のための二つの要素

移住対策

地域経済対策

移住対策

なぜ、中和は移住対策に成功したか？
(中和では人口が増えた！！？)

一つの要素ではなく、たくさんの要素が成功をもたらした！

10年前と比べて、地域はどのように変貌したか？
(詳しくは、**中和の大美さん**に聞いてください！)

しかし、急激な移住増加は、少々要注意
(長期に亘り、ジワジワ移住民が来る体制がベスト？)

さまざまな成功を収めた豊田市の安藤さんの話、是非、お聞き下さい！！

地域経済対策

まず、「地域経済」をどのように捉えるかが重要
(「産業連関表」はあるが・・・)

(地域経済は「穴の空いたバケツ」(12月にお話しします!))

(“LM3”という画期的な手法がある!(これも12月に))

これまでの地域経済活性化施策は、「企業誘致」と「観光」だけ?!
(「地域には雇用がないから若者が出ていく」という妄想?)

都市でも田舎でもない、「マチ」の消滅が大問題
(かつて「シティーガール」がいた陣屋周辺の商店街が地域の「マチ」=消費地だった)
(どんな高級取りが移住してきても、地域で消費できないとお金は地域外に流れてしまう)

地域に高等教育の場がないと、膨大なお金が地域外に流れてしまう!!
(高校生下宿で300万、大学で900万!!)

いずれにせよ、これからは「非貨幣経済」(=自給+贈与+交換)も含めた地域経済分析が必要

そもそも、「経済」を狭く見ていることが問題では？！

経済活動は、「貨幣経済」だけではない！！

「買う」から「つくる」とは、貨幣経済からの離脱を意味している！

「自給」の幅を広げることは、「自己決定」の幅を広げること

地域の「自己決定」の幅を広げることは、まさに「自治」の幅を広げること

「自治」の幅を広げることが、「地域再生」の基本的要件では？

このくらいにしておきます！！

では、お待ちかね、
笠松さん、安藤さんの講演です ！